

# 千布小学校だより

5月号 R1.5.13  
天童市立千布小学校  
校長 三好 義宏

## 学び続ける子どもの育成

千布小学校では、上記学校目標が、教育のめざすものと考えております。特に「伸びる」ではなく「伸びていく」としているのは、伸びを継続していく、動的なものにとらえているからです。

山形県で大切にしているキャッチフレーズに、「学び続ける人」があります。現在の学びも大切にしながら、未来につながる学力を育む場所が学校であるという、考え方です。ですから、本校の「伸びていく」の言葉も同様に、小学校に留まらず、中学校・高校・社会へつながる学習の基礎を作るという意味を含んでおります。

実際の学習場面では、教師は以下のような点に気を配りながら、指導をしていくこととなります。

**わかる授業づくり：**「勉強が嫌い。」と言う子どもから話を聞くと「分からない。」の答えが聞こえてきます。日々の授業では、「分かるって楽しい。」と子どもの声が聞こえてくるような授業づくりに、努力しています。

**つながる授業づくり：**小学校の同学年は、一般社会の不特定の異年齢集団と比べますと、均質の集団と言ってよいはずですが。つながりをもち易い学年で、十分にコミュニケーションを積みせていきます。それは、他者とつながることによって、自分を再認識する営みが大切だからです。

**学んだことを生かす授業づくり：**例をあげれば、漢字の習得は大切な学習の基盤ですが、漢字を使いこなして文章を作ることの方が、より高度なめあてになります。国語や算数、生活科等で学んだことを、他の教科や領域でも生かす術を知っている子どもを育てようと考えております。

流れの速い現代においては、10年先の事も確実に見えない時代です。学び続ける意欲を持った子どもたちなら、乗り越えてくれるという願いを持ち、教育にあたってまいります。連休が明けたので、授業づくりに本格的に取り組めます。

## 読み聞かせ

### “ぶどうの実” 始まりました

13日の朝は、読み聞かせサークル、ぶどうの実の4名の方がいらして、読み聞かせを行ってくださいました。子どもたちは、ここに笑顔で聞き入っていました。1年間、宜しくお願いします。



## あいさつを考える

児童会でも取り組んでいるものに、挨拶運動があります。自分たちの課題や千布小の伝統などを考え合わせて、挨拶に取り組むことにしています。

先日、うれしいことがありました。通学路上にあるお菓子屋さんのご主人から、「前より、挨拶がよくなったねえ。」と言われた職員がいたようです。子どもたちの頑張りが認められると、次への勇気がもらえます。また、1週間ほど前にも、押しボタン式信号機で止まってくれた両側の運転手に会釈をしている6年生を見かけました。心がつながる挨拶ができていると感心し、褒めたところです。

漢字の挨拶は「背中をたたく事」で挨拶は「押しのける事」と言われ、相手に自分を気付いてもらうこととなります。気持ちの良い挨拶で、さわやかに自分をアピールしてほしいものです。

## 資源回収ありがとうございました



《瓶の積み込み風景》

各地区の地区委員を中心にして、PTA資源回収が行われました。

地区ごとに、子どもたちも意欲的に協力していたようです。ありがとうございました。